

<https://seisa.ac.jp/about/outline/policy/>[星槎大学について](#)[共生科学部・専攻](#)[教員免許状・資格](#)[入学案内](#)[Web出願](#)[資料請求](#)[HOME](#) > [星槎大学について](#) > [大学紹介・特長](#) > [星槎大学の3つのポリシー](#)

星槎大学の3つのポリシー

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

星槎大学は、通信制課程のみを設置する大学として、学ぶ機会をすべての人に対し平等に拓くと共に、「共生科学」を学問分野とした教育研究活動を行っています。「学びたい」と感じたときがその人にとっての学びの適齢期であり、その「学び方」も多様であるとの考え方から、社会人も含めたあらゆる方にとっての学びやすさを提供しています。

星槎大学では、このような考え方にに基づき、大学の教育理念に共感し、強い意欲をもって学び、かつその学びを社会における実践に繋げていく志をもつ人を広く受け入れます。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

星槎大学では、その理念に基づいて、通信制課程ならではの多様な学生に応じて、学位授与の方針に掲げる人材を養成するために、以下の方針で教育課程を編成しています。

- すべての学生が必ず修める科目として、人と人、人と自然、国と国の三つの領域に関わる「共生科学概説」2科目を置き、4年次編入の学生でも、星槎共生スピリットを身につけることとします。
- 三つの領域を深く学ぶために、「共生科学概説」を中心に、コアカリキュラムを配置し、その中心的な科目として、共生科学基盤科目(選択必修科目)を開設します。
- 学士課程を構成する科目として、教養科目(選択必修科目)を開設します。
- 専門科目として、専攻専門科目(専攻ごと選択必修科目)を開設(共生科学専攻専門科目群、初等教育専攻専門科目群、福祉専攻専門科目群、スポーツ身体表現専攻専門科目群、グローバルコミュニケーション専攻専門科目群)し、専攻を越えて領域横断的に学べるようにします。
- 共通専門科目を、共生科学専攻専門科目群に開設し、専攻を越えて学べるようにします。
- 共生科学専攻専門科目群は、共通専門科目以外には、教育、特別支援教育、環境、国際関係に区分して開設します。
- 資格関連科目群については、教職課程等に必要な科目を開設します。
- 学修の集大成として、「卒業論文」と「共生研究」、「卒業制作」を開設します。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

- A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
- B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
- C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
- D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
- E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
- F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のた めの必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：斎藤 俊則 担当形態：オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
「学位授与の方針」との関係 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
授業の到達目標及びテーマ （１）オフィスアプリケーションを活用した文書や資料の作成ができる。 （２）クラウド環境でデジタルデータの保存や共有ができる。 （３）Scratch で自分が楽しむことのできる作品を作ることができる。 （４）インターネットを中心とする情報環境にて合理的かつ安全に情報の検索と活用ができる。			
授業の概要 学校教育での幅広い職務に応用可能なデジタル情報環境下における情報機器の扱いを学習する。情報機器の具体的な操作方法是日々変わるため、この授業では新しい環境下での自習による操作習得に必要なスキルの獲得に力点を置く。また、デジタル情報の扱いを合理的かつ安全に行うための基礎知識を合わせて学習する。			
授業計画 第 1 回：「教育の情報化」とその対応 第 2 回：I C T 活用基礎実習①－Word の活用（基礎） 第 3 回：I C T 活用基礎実習②－Word の活用（レポートの作成） 第 4 回：I C T 活用基礎実習③－Excel の活用（基礎） 第 5 回：I C T 活用基礎実習④－Excel の活用（グラフの作成と表計算機能の利用） 第 6 回：I C T 活用基礎実習⑤－PowerPoint の活用（基礎） 第 7 回：I C T 活用基礎実習⑥－PowerPoint の活用（プレゼンテーション資料の作成） 第 8 回：デジタル情報活用基礎実習①－情報の調べ方・まとめ方 第 9 回：デジタル情報活用基礎実習②－情報と法律 第 10 回：デジタル情報活用基礎実習③－情報とセキュリティ 第 11 回：クラウド環境演習①－クラウドの仕組みとアカウント作成 第 12 回：クラウド環境演習②－クラウドを利用した情報共有 第 13 回：プログラミング演習①－プログラミングの基礎 第 14 回：プログラミング演習②－作品制作 第 15 回：まとめ 定期試験 テキスト			

奥村晴彦・森本尚之『改訂第4版 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 2020年

参考書・参考資料等

文部科学省「小学校プログラミング教育の手引（第一版）」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm

学生に対する評価：

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。

授業科目名： 教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む） （初等）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：斎藤 俊則 仲 久徳 担当形態：オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ※「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」について 1 単位 （授業時間数：15 時間）を含む		
「学位授与の方針」との関係 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと			
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 教育の方法及び技術、情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を活用した教育の理論および方法 【到達目標】 ・教育方法に関する基礎的理論、授業、学習評価、情報通信技術を活用した教育の方法・技術に関する基礎的事項について説明できる。 ・教材研究の方法や授業の設計と展開、運営の方法について理解し、具体的なテーマに沿って学習指導案・教材を作成できる。 ・教材・授業における情報通信技術の具体的な活用方法を提案できる。 ・情報モラルの育成を図る教材・指導法を提案できる。			
授業の概要 本授業では、教育方法の基礎的理論、教材研究、授業の設計と展開、運営に関する基礎的事項や方法、情報通信技術を活用した教育方法・技術に関する基礎的事項について理解し、情報通信技術を活用した教材・授業、情報モラルの育成を図る教材・指導法などを具体的な場面で構想し、学習指導案を作成できることをねらいとする。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス（担当：斎藤） ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）について学ぶ。 ・社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術の活用の意義と在り方について学ぶ。 第 2 回 教育方法の基礎的理論（担当：斎藤） ・学習指導を中心とした教育方法の基礎的理論について学ぶ。 第 3 回 授業を構成する基礎的な要件（担当：斎藤）			

・学級及び児童・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件、幼児と教員を含む保育環境など保育を構成する基礎的な要件について学ぶ。

第4回 授業設計・教材設計の基礎的事項（情報通信技術の効果的な活用を含む）（担当：仲）

・学習指導に関する基礎的理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた授業設計・教材設計の基礎的事項について学ぶ。

・育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した授業設計・教材設計の基礎的事項について学ぶ。

第5回 授業運営の基礎的事項（情報通信技術の効果的な活用を含む）（担当：仲）

・話法・板書など、授業運営の基礎的事項について学ぶ。

・育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した授業運営の基礎的事項について学ぶ。

第6回 学習評価・教育データの活用とセキュリティ対策（担当：斎藤）

・学習評価の基礎的事項、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方について学ぶ。

・学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用して指導や学習評価に活用すること及び教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。

第7回 情報通信技術を活用した遠隔・オンライン教育（担当：斎藤）

・遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法について学ぶ。

第8回 情報通信技術を活用した校務とマネジメント（担当：斎藤）

・統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。

・ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方について学ぶ。

第9回 情報通信技術を活用と特別の支援を必要とする生徒への対応（担当：斎藤）

・特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用にあたっての留意点について学ぶ。

第10回 情報活用能力（情報モラルを含む。）の基礎的事項（担当：斎藤）

・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において、横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）の基礎的事項について学ぶ。

第11回 情報通信技術と授業・教材の実践（1）：学習指導案の作成（担当：仲）

・育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例を構想し、学習指導に関する基礎的理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成方法について学ぶ。

第12回 情報通信技術と授業・教材の実践（2）：デジタル教材の作成・利用（担当：仲）

・授業や保育を構成する基礎的な要件を踏まえたデジタル教材の作成・利用について学ぶ。

第13回 情報通信技術と授業・教材の実践（3）：情報通信技術を利用した授業運営（担当：仲）

・話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を踏まえつつ、情報通信技術を効果的に活用した授業運営について学ぶ。

第14回 情報通信技術と授業・教材の実践（4）：情報活用能力（情報モラルを含む。）の指導法（担当：仲）

・児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法について学ぶ。

・情報活用能力（情報モラルを含む）について、各教科等の特性に応じた指導事例を踏まえた教材・指導法について学ぶ。

第15回 情報通信技術と授業・教材の実際（5）：授業研究と授業改善（担当：仲）

・授業研究の方法について学び、第11回～第14回までの演習を振り返る。

定期試験

*スクーリング（オンデマンド）では、第7回～第10回の内容を包括的に扱い、スクーリング（対面）では、第11回～第14回の内容を包括的に扱う。

テキスト

稲垣忠『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房 2019年

補助資料を配布

参考書・参考資料等

文部科学省（2017）『学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説総則編』

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』・『高等学校学習指導要領解説総則編』

文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)』

稲垣忠／佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践：DX時代の教師を目指して』北大路書房

学生に対する評価：

レポート（25%）、スクーリング（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。

授業科目名： 教育方法・技術論（情報 通信技術の活用含む） （中等）	教員の免許状取得のた めの必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仲 久徳 斎藤 俊則 担当形態：オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 ※「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」について1単位 （授業時間数：15時間）を含む		
「学位授与の方針」との関係 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと			
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 教育の方法及び技術、情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を活用した教育の理論および方法 【到達目標】 ・教育方法に関する基礎的理論、授業、学習評価、情報通信技術を活用した教育の方法・技術に関する基礎的事項について説明できる。 ・教材研究の方法や授業の設計と展開、運営の方法について理解し、具体的なテーマに沿って学習指導案・教材を作成できる。 ・教材・授業における情報通信技術の具体的な活用方法を提案できる。 ・情報モラルの育成を図る教材・指導法を提案できる。			
授業の概要 本授業では、教育方法の基礎的理論、教材研究、授業の設計と展開、運営に関する基礎的事項や方法、情報通信技術を活用した教育方法・技術に関する基礎的事項について理解し、情報通信技術を活用した教材・授業、情報モラルの育成を図る教材・指導法などを具体的な場面で構想し、学習指導案を作成できることをねらいとする。			
授業計画 第1回 ガイダンス（担当：仲） ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）について学ぶ。 ・社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術の活用の意義と在り方について学ぶ。 第2回 教育方法の基礎的理論（担当：斎藤） ・学習指導を中心とした教育方法の基礎的理論について学ぶ。 第3回 授業を構成する基礎的な要件（担当：斎藤） ・学級及び生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件について学ぶ。			

第4回 授業設計・教材設計の基礎的事項（情報通信技術の効果的な活用を含む）（担当：仲）

- ・学習指導に関する基礎的理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた授業設計・教材設計の基礎的事項について学ぶ。
- ・育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した授業設計・教材設計の基礎的事項について学ぶ。

第5回 授業運営の基礎的事項（情報通信技術の効果的な活用を含む）（担当：仲）

- ・話法・板書など、授業運営の基礎的事項について学ぶ。
- ・育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した授業運営の基礎的事項について学ぶ。

第6回 学習評価・教育データの活用とセキュリティ対策（担当：斎藤）

- ・学習評価の基礎的事項について学ぶ。
- ・学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用して指導や学習評価に活用すること及び教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。

第7回 情報通信技術を活用した遠隔・オンライン教育（担当：斎藤）

- ・遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法について学ぶ。

第8回 情報通信技術を活用した校務とマネジメント（担当：斎藤）

- ・統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。
- ・ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方について学ぶ。

第9回 情報通信技術を活用と特別の支援を必要とする生徒への対応（担当：斎藤）

- ・特別の支援を必要とする生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用にあたっての留意点について学ぶ。

第10回 情報活用能力（情報モラルを含む。）の基礎的事項（担当：斎藤）

- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において、横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）の基礎的事項について学ぶ。

第11回 情報通信技術と授業・教材の実際（1）：学習指導案の作成（担当：仲）

- ・育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例を構想し、学習指導に関する基礎的理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成方法について学ぶ。

第12回 情報通信技術と授業・教材の実際（2）：デジタル教材の作成・利用（担当：仲）

- ・授業を構成する基礎的な要件を踏まえたデジタル教材の作成・利用について学ぶ。

第13回 情報通信技術と授業・教材の実際（3）：情報通信技術を利用した授業運営（担当：仲）

- ・話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を踏まえつつ、情報通信技術を効果的に活用した授業運営について学ぶ。

第14回 情報通信技術と授業・教材の実際（4）：情報活用能力（情報モラルを含む）の指導法（担当：仲）

- ・情報活用能力（情報モラルを含む）について、各教科等の特性に応じた指導事例を踏まえた教材・指導法について学ぶ。

第15回 情報通信技術と授業・教材の実際（5）：授業研究と授業改善（担当：仲）

- ・授業研究の方法について学び、第11回～第14回までの学習を振り返る。

定期試験

*スクーリング（オンデマンド）では、第7回～第10回の内容を包括的に扱い、スクーリング（対面）では、第11回～第14回の内容を包括的に扱う。

テキスト

稲垣忠『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房 2019 年

補助資料を配布

参考書・参考資料等

文部科学省（2017）『学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説総則編』

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』・『高等学校学習指導要領解説総則編』

文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)』

稲垣忠／佐藤和紀編著（2021）『ICT 活用の理論と実践：DX時代の教師を目指して』北大路書房

学生に対する評価：

レポート（25%）、スクーリング（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。

情報処理（担当：斎藤 俊則）

E-mail: 削除

科目コード	単位数 () 内は SC	レポート (RE)	スクーリング (SC)	科目修得 試験	学修の順番
531120	2 単位	1 本	なし	レポート方式	－
備考	【教員免許】 免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目				
教科書	『改訂第 4 版 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社				
クラスコード	削除				

■授業の到達目標及びテーマ

- (1) オフィスアプリケーションを活用した文書や資料の作成ができる。
- (2) クラウド環境でデジタルデータの保存や共有ができる。
- (3) Scratch で自分が楽しむことのできる作品を作ることができる。
- (4) インターネットを中心とする情報環境にて合理的かつ安全に情報の検索と活用ができる。

■授業の概要

学校教育での幅広い職務に応用可能なデジタル情報環境下における情報機器の扱いを学修する。情報機器の具体的な操作方法は日々変わるため、この授業では新しい環境下での自習による操作習得に必要なスキルや知識の獲得に力点を置く。また、デジタル情報の扱いを合理的かつ安全に行うための基礎知識を合わせて学修する。

■学修の流れと進め方

<学修の流れ>

- ①「学修の具体的な進め方」の案内に従って課題 1～8 を完成させ、課題 9 の指示に従って提出する。
- ②課題 1～8 のレポート提出後に科目修得試験（レポート方式）を提出する。ただし、科目修得試験の評価はレポート合格後に行う。

<学修の進め方>

- ①テキストにおいて、以下の「■学修の具体的な進め方」に示された内容について学ぶとともに、レポート学修を進める。
- ②レポート（課題 1～8）を提出の後、科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

<注意事項>

以下に掲げる「■学修の具体的な進め方」の指示に従って、テキストを読みながらテーマの課題に取り組む。出版社によるテキストのサポートページ（URL は以下を参照）の情報を必ず確認すること。

<https://gihyo.jp/book/2020/978-4-297-11710-8/support>

また、この科目では課題提出のために Google ドライブおよび Scratch を利用する。そのための準備として、Google アカウントおよび Scratch のアカウントを必ず作成し、かつログインおよびログアウトの操作を自習すること（ただし Google アカウントに関しては、2021 年度より大学が学生に一律配布するメールアドレスが Google アカウントを兼ねるため、通常の場合、大学メールアドレスを使用することで新たな Google アカウント作成の必要は生じない）。Google、Scratch のアカウントの作成の仕方については、それぞれ Google 等の検索サイトでキーワード「Google アカウント作成」および「Scratch アカウント作成」を入力し検索すると上位項目に有用な情報がリストアップされる。なお提出については、下記リンク（レポート提出フォーム）より行うこと。

【レポート提出フォーム】

削除

■レポート学修

レポートのテーマ（字数指定なし）

情報非公開のため削除

レポートの評価基準

課題 1、課題 2、課題 3、課題 4、課題 5 については各 2 点、課題 6、課題 7、課題 8 については 5 点（合計 25 点満点）で採点する。なお、合計 20 点未満の場合、再提出とする。

※他者の著作物（書籍、雑誌、インターネット上の情報、他者が作成したレポートなど）をあたかも自分が書いたように見せかけることは、不正行為となる。

■学修の具体的な進め方

テーマ①：オフィスアプリケーションの活用

シラバス：第 1 回～第 7 回 テキスト：第 5 章、第 6 章、第 7 章

到達目標（何を学ぶか）

- 1 ワープロソフトの諸機能を用いて章立て構造を持つ文書を作成できる。
- 2 表計算ソフトを用いてデータからグラフを作成することができる。
- 3 表計算ソフトを用いて簡単な統計計算を行うことができる。
- 4 プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
- 5 オフィスアプリケーションで作成した文書を汎用フォーマット（PDF）に変換して保存できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

以下の「研究課題」に取り組む。

研究課題

<課題1>ワープロソフトによる章立て構造を持つ文書の作成

<作成目標>

- ・ テキスト p.61 図 5.2 を参考に、ワープロソフト（Microsoft Word を想定）を用いて章立て構造を持つ文書を作成する。図 5.2 の例と同様に文章、タイトル、日付と著者名、見出し、箇条書き、引用文、参考文献を有する文書であれば内容は問わない。

<作成手順>

- ・ テキスト p.59～75（「5.1 文書作成ソフトのいろいろ」から「5.3 Word でレポート作成」の最後まで）の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 5.2 と同様の文書を作成する。

- ・ 作成した文書のデータは<課題 9>で指示する方法で提出する（提出は、クラウドドライブ上に作成した提出用フォルダ上にデータを保存し、共有機能を用いてそのフォルダの URL を講師が準備した提出先にアップロードする方法で行う。課題 2～7 の提出も同様の手順で行う）。

<課題2>表計算ソフトによるグラフの作成

<作成目標>

- ・ テキスト p.94 図 6.15 を参考に、表計算ソフト（Microsoft Excel を想定）を用いて表とグラフを作成し、それらをワープロソフトで作成した文書に貼り付けて、文章、表、グラフが入った文書を作成する。図 6.15 の例と同様に表（5 行 4 列以上のデータがあるもの）およびグラフ（集合縦棒形式）を有する文書であれば内容は問わない。

<作成手順>

- ・ テキスト p.83～95（「6.1 表計算ソフトウェアとは」から「6.7 Word への貼り付け」の最後まで）の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 6.15 と同様の文書を作成する。

- ・ 作成した文書のデータは<課題 9>で指示する方法で提出する。

<課題3>表計算ソフトによる簡単な統計計算の実行

<作成目標>

- ・ テキスト p.105 図 6.33 を参考に、表計算ソフトを用いて複数の得点が並ぶ得点表について得点ごとの偏差値、得点全体の平均および標準偏差を算出する。図 6.33 の例と同様に 10 件以上の得点が並ぶ得点表であればデータの内容は問わない。

<作成手順>

- ・ テキスト p.95～105（「6.8 計算」から「6.9 もっと計算、並べ替え」の最後まで）の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 6.33 と同様の文書を作成する。

- ・ 作成した表計算のデータは<課題 9>で指示する方法で提出する。

<課題4>プレゼンテーションソフトによるプレゼンテーション資料の作成

<作成目標>

- ・ テキスト p.115 図 7.3、図 7.4 および p.114 図 7.5 を参考に、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint を想定）を用いて口頭発表等に用いるプレゼンテーション資料を作成する。タイトルページ、箇条書きページ、および表計算ソフトで作成したグラフを読み込んだグラフ入りページを含む資料であれば内容は問わない。

<作成手順>

- ・ テキスト p.111～115（「7.1 プレゼンテーションとは」から「7.2 PowerPoint の

使い方」の最後まで) の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 7.3～7.5 と同様の文書を作成する。

- ・ 作成した文書のデータは<課題 9>で指示する方法で提出する。

<課題 5>データの汎用フォーマットへの変換と保存

<作成目標>

- ・ ワードプロソフト (保存の操作方法は p.62～63) およびプレゼンテーションソフト (保存の操作方法は p.114) で作成した課題 1、課題 2、課題 4 のデータをそれぞれ PDF に変換して保存する。

<作成手順>

- ・ テキスト p.79～80 の解説を参考に、汎用フォーマットである PDF についての基礎知識を確認する。
- ・ ワードプロソフトで作成した課題 1、課題 2 のデータを PDF に変換して保存する。
- ・ プレゼンテーションソフトで作成した課題 4 のデータを PDF に変換して保存する。
- ・ 作成した 3 つのデータは<課題 9>で指示する方法で提出する。

テーマ②：デジタル情報の合理的かつ安全な活用

シラバス：第 8 回～第 10 回 テキスト：第 9 章、第 11 章、第 12 章

到達目標 (何を学ぶか)

- 1 サーチエンジンの諸機能を目的に応じて使い分けることができる。
- 2 デジタル情報機器を使う上での安全上のリスクと対策について基本的な知識を持ち、学校現場での合理的な対応策を考案することができる。
- 3 情報の扱いに関わる法律について基本的な知識を持ち、学校現場での情報の扱いについて「してよいこと」と「してはいけないこと」、および「すべきこと」と「すべきでないこと」の区別をすることができる。

学修の進め方 (どう学ぶか)

以下の「研究課題」に取り組む。

研究課題

<課題 6>サーチエンジンの目的に応じた合理的な利用

<作成目標>

- ・ サーチエンジン (Google を想定) を用いてテキスト p.128 に掲載された 3 種類の検索 (AND、OR、NOT 検索) および p.129 に掲載されたドメイン名による絞り込み検索を実施して、条件に応じた適切な検索の仕方について学んだ内容を説明する文章を作成する。

<作成手順>

- ・ テキスト p.128 の解説を読んだ上で、Google にて自分で選んだキーワードを用いて AND 検索、OR 検索、NOT 検索を実行する。
■ それぞれのキーワードは半角のダブルクォーテーション (") で囲むと「完全一致検索」となり、それぞれの検索結果の違いがよりわかりやすい。
- ・ 同じく Google にてテキスト p.129 に掲載されたドメイン名による絞り込み検索を実行する。

- ・ AND 検索、OR 検索、NOT 検索、およびドメイン名による絞り込み検索を使うことが有効であると考えられる事例を探して、理由とともにその説明を文章化する（これを「課題6 解答」とする）。

<課題7>学校現場でデジタル情報機器を扱う上でのリスクと対策

<作成目標>

- ・ テキスト第 11 章「情報とセキュリティ」全体（p.147～158）を参照して、教員、生徒・児童問わず学校でできるだけデジタル情報機器の活用を進める立場から、教員および生徒・児童が持つべきコンピュータの安全な利用に関わる知識を特定するとともに、教員、生徒・児童がその知識を身につけるための学修機会の設定の仕方について自らの考えを言語化する。

<作成手順>

- ・ テキスト第 11 章「情報とセキュリティ」全体（p.147～158）を通読した上で、以下の資料を作成する。

1 p.147～154（「11.1 脆弱性とその対策」および「11.5 Mac のセキュリティ対策」）に挙げられているセキュリティ対策の内容を踏まえて、「PC のセキュリティ対策」というタイトルの一覧表を作成する。ただしその表は、「PC に必ずしも詳しくない教員および生徒・児童が一覧して手短に PC のセキュリティ対策の要点がわかること」を目的に作られた資料であると想定する（これを「課題7 解答①」とする）。

2 ①で作成した表が教員および生徒・児童に有効に生かされるための学修機会として具体的にどのような機会を設けることが考えられるか。また、そのような機会を設ける上での課題は何か。外部資料なども適宜参照しつつ、これらについての各自の考えを文章化する（これを「課題7 解答②」とする）。

<課題8>情報の扱いに関わる法律を踏まえた学校現場での情報活用

<作成目標>

- ・ テキスト第 12 章「情報と法律」全体（p.159～166）を参照して、学校現場での情報の扱いに関して特に「知的財産権、著作者人格権および著作権の保護」および「個人情報保護」の 2 点について教員組織全体が適正な理解を持つことができるように、研修での利用を想定したプレゼンテーション資料を作成する。

<作成手順>

- ・ テキスト第 12 章「情報と法律」全体（p.159～166）を通読した上で、教員同士の研修を想定して、学校内での情報の取り扱いについての 1 つのプレゼンテーション資料を作成する（これを「課題8 解答」とする）。そのプレゼンテーション資料には以下の内容を含めるものとする。

■ 「知的財産権、著作者人格権および著作権の保護の観点から〈してよいこと〉と〈してはいけないこと〉」について 3 ページ以上 5 ページ以内の説明

■ 「個人情報保護法の観点から留意すべきこと」について 1 ページ以上 3 ページ以内の説明

「課題6～8 解答」の提出方法

- ・ 「課題6 解答」、「課題7 解答①」、「課題7 解答②」はワープロソフトで 1 つの文書にまとめて保存する。その際には、冒頭に「レポート課題6～7 解答」という見出しと「氏名」および「学生番号」を記し、スタイル機能等を適宜用いて読みやすく整形する。

- ・ 上記の「レポート課題 6～7 解答」とプレゼンテーション資料「課題 8 解答」とは、＜課題 9＞で指示する方法で提出する。

テーマ③：クラウド環境におけるデータ活用

シラバス：第 11 回～第 12 回 テキスト：該当なし

到達目標（何を学ぶか）

- ・ クラウド環境でデジタルデータの保存や共有ができる。

学修の進め方（どう学ぶか）

以下の「研究課題」に取り組む。

研究課題

＜課題 9＞情報の扱いに関わる法律を踏まえた学校現場での情報活用

＜作成目標＞

- ・ Google が公開する「Google ドライブの使い方
(<https://support.google.com/drive/answer/2424384?co=GENIE.Platform%3DDesktop&hl=ja>)」を参照して、Google ドライブの使用を開始し、自分がこの授業の学修過程で作成した文書をアップロードする。
- ・ 同じく Google が公開する「Google ドライブの使い方」を参照して、Google ドライブにアップロードした ファイルとフォルダを共有する方法を確認する。

＜作成手順＞

- ・ (Google アカウントがない場合) Google が公開する「Google アカウントの作成
(<https://support.google.com/accounts/answer/27441?hl=ja>)」を見ながら自分の Google アカウントを作成する。＊ただし 2021 年度より大学が学生に一律配布するメールアドレスが Google アカウントを兼ねるため、通常の場合、大学メールアドレスを使用することで新たな Google アカウント作成の必要は生じない。
- ・ 「Google ドライブの使い方」を参照して、これまでの課題（課題 1～8）で作成した全てのファイルを Google ドライブにアップロードする。アップロードをする際には以下を参照して内容別のフォルダを作成し、それぞれのフォルダの中に所定のファイルを保存する。

課題番号	ファイル総数	ファイルの内容	フォルダ名
課題 1	1	ワープロソフトによる章立て構造を持つ文書	テーマ 1-1
課題 2	1	表計算ソフトによって作成したグラフを添付した文書	テーマ 1-1
課題 3	1	表計算ソフトで作成した得点表	テーマ 1-1
課題 4	1	プレゼンテーションソフトで作成したプレゼンテーション資料	テーマ 1-1
課題 5	3	課題 1, 課題 2, 課題 4 の PDF 版	テーマ 1-2

課題 6 及び 7		課題 6 解答 + 課題 7 解答① + 課題 7 解答 ②	テーマ 2
課題 8		課題 8 解答	テーマ 2

「課題 9」の提出方法

- ・ 上述の「Google ドライブの使い方」の「ステップ 3: ファイルを共有、整理する / Google ドライブのフォルダを共有する」のページを開き、そのページにある「共有相手を選択する / フォルダへのリンクを知っている全員」の説明を参照して、上記の手順によって作成された 3 つのフォルダ（テーマ 1-1、テーマ 1-2、テーマ 2）のリンクを取得する。その際、「6. ユーザーの権限を選択します（閲覧のみ、または編集可）」については必ず「**編集可**」を選択する（採点者はレポートの講評をフォルダ「テーマ 1-1」に書き込む。その際、「編集可」でなければ書き込みの操作ができないため要注意）。「編集可」の設定の後、それぞれのフォルダの「共有可能なリンク」を取得する。
- ・ **【注意 1】「編集可」の権限が設定されていない提出物は「D（再提出）」扱いとなり、最終提出期限を超過している場合は再提出が不可能となるため注意すること**
- ・ **【注意 2】上記方法以外での提出（例、Google ドライブ以外のドライブを利用した提出、フォルダではなくファイルの共有リンク（URL）の提出、指定した操作の実施が確認できない状態のファイルの提出など）による提出物は、同じく「D（再提出）」扱いとなり、最終提出期限を超過している場合は再提出が不可能となるため注意すること**



- ・ 本学修指導書 2 ページ目記載の「レポート課題提出フォーム」の URL を開き、提出フォームの所定の場所に URL をコピーして 3 つのフォルダのリンクを提出する
- **注意！これが課題 1～8 の提出方法となる。この手続きを行わないと課題 1～8 の提出が完了したとはみなされないため注意すること。メールなどの代替手段による提出は原則的に認めない。**

情報処理B 2020年度前期 「課題9」 提出フォーム

「課題9」はここから提出してください。

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

あなたの氏名を記入してください。

回答を入力

あなたの学生番号を記入してください。

回答を入力

テーマ④：プログラミングの基礎

シラバス：第 13 回～第 14 回 テキスト：該当なし

到達目標（何を学ぶか）

- ・ Scratch（プログラミングソフト）を活用して自分が楽しむことのできる作品を作ることができる。
- ・ コンピュータ分野の専門家にはならない人たちがプログラミングを学修することの意義について自らの経験を踏まえつつ対話的に考察する準備ができる。

学修の進め方（どう学ぶか）

以下の「研究課題」に取り組む。

研究課題

<課題 10> プログラミングの市民教育・一般教育としての意義

<作成目標>

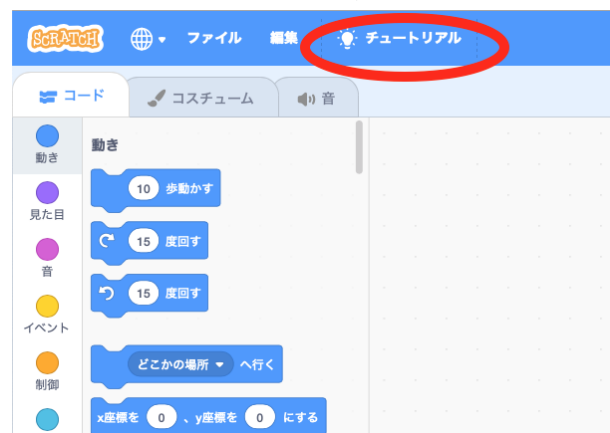
- ・ Scratch のウェブサイト (<https://scratch.mit.edu/>) でチュートリアルを参照して、プログラミングによって自分が楽しむことのできる作品を作成する。

<作成手順>

- ・ Scratch のウェブサイトにて自分のアカウントを作成する。ウェブサイトは検索サイトで「Scratch」と入力して最上位に表示される（またはウェブサイトの URL である「<https://scratch.mit.edu/>」をブラウザに直接入力する）。このウェブサイトの画面右上に「Scratchに参加しよう」というテキストリンクがあるので、それをクリックすることでアカウント作成が開始される。



- ・ アカウントを作成後、サインインをして画面上部の「作る」というテキストリンクからプログラム制作画面に移動する。プログラム制作画面上部に「チュートリアル」というテキストリンクがあるのでクリックし、表示された各項目のチュートリアル（目的別のプログラムの作り方を案内する動画）を視聴する。



- ・ 自分で選んだテーマに従ってプログラミングを行い作品の試作を行う。慣れるまではチュートリアルに準じて同じようなプログラムを作り、徐々に自分が作りたいもののイメージを膨らませる。楽しそうだと思うテーマを決めて、最終的に一つの作品に仕上げる。

■ テーマ案としては、誰かに見せたいアニメーションやプレゼンテーション、単純な構造を持つゲーム、自分や身近な人に便利な機能を提供する計算機（カロリー計算、価格計算など）、一問一答式のクイズ形式による単語帳など学修補助アプリ、その他身近な用途を考えるとよい。

■ Scratch のサイトにある他の人が作った作品を参考にしてもよい（「リミックス」機能を使うなど）

■ Scratch についてはインターネット上に様々な情報があるので各自検索して作品作りの参考にするとよい。

「課題 10」の提出方法

- ・ <課題 10>についてのレポート課題は課さない。この課題の成果は科目修得試験の中で評価する。

テーマ⑤：科目修得試験

【課題】

以下 3 点に関する課題を出題する。

- ・ 「テーマ④：プログラミングの基礎」の成果と振り返り（Scratch 作品、文章記

述)

- ・ 情報活用能力の育成に関する教員の知識・資質に関する問い（文章記述）
- ・ 教育の情報化にまつわる教員の課題に関する問い（文章記述）

※科目修得試験はレポート合格後に提出すること。

※課題の提出方法は本学修指導書と同一フォルダに記載の「531120 情報処理 B 科目修得試験提出要領」を参照すること。

参考文献

文部科学省「小学校プログラミング教育の手引（第一版）」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm

併せてとりたい科目

教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）（初等）

教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（初等）

さいとう としのり なか ひさのり

（担当：斎藤 俊則・仲 久徳）

E-mail:削除

科目コード	単位数 () 内は SC	レポート (RE)	スクーリング (SC)	科目修得 試験	学修の順番
546203	2 (0.5) 単位	1 本	1 日	レポート方式	RE→SC
備考	【教員免許】 幼稚園・小学校「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 【レポートの事前提出】 受講を希望するスクーリング日の1週間前までにレポートをオンライン、郵送（必着）のいずれかで提出してください。事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。 【オンデマンド視聴】 この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、Web ライブスクーリングを受講すること。				
スクーリングの持ち物	教科書、筆記用具、ノート				
教科書	稲垣忠『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房 2019 年				
キーワード	教育方法、学び、学習評価、授業運営、情報通信技術の活用				
クラスコード	削除				

■授業の到達目標及びテーマ

- (1) 教育方法、学びや授業、学習評価、情報通信技術の活用、情報活用能力（情報モラルを含む。）に関する基礎的事項について説明できる。
- (2) 教材研究の方法や授業の構成について理解し、主として情報活用能力（情報モラルを含む。）の育成を図る教材を活用した授業を提案し、学習指導案が作成できる。
- (3) 情報通信技術の活用について、教材研究・授業における具体的な活用方法や学習環境を提案できる。

■授業の概要

本授業では、教育方法、学びや授業、学習評価、情報通信技術の活用、情報活用能力（情報モラルを含む。）に関する基本的な考え方について理解するとともに、学習指導案の作成を含めた授業に関する基礎的技術を身に付けていく。また、教師に求められる「学びを読み取る力」、「授業を見る力」について理解を深めていく。

■学修の流れと進め方

<学修の流れ>

- ①レポート提出後にスクーリング（オンデマンド、対面の順）を受講する。
- ②レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験（レポート方式）を提出する。

<学修の進め方>

- ①教科書を読んで学んだことのうち、実際に授業・保育をデザイン、実施する際に重要だと考えられる点について、実際の授業事例を考えながらレポートにまとめる。
- ②スクーリングを受講する。なお、オンデマンド、対面の順に受講する。
- ③科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

■レポート学修

レポートのテーマ（2,000字～3,000字程度）

情報非公開のため削除

レポートの評価基準

- （１）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （２）レポート構成は「序論」、「本論①・②」、「結論」の構成になっていること
- （３）「序論」では、授業についての自らの考え方について述べていること
- （４）「本論①」では、授業・保育をデザインする、実施する際に重要だと考える３つのポイントの概要について、教科書の３つ以上の章（そのうち必ず１つは第12, 13, 14章のいずれかを含む）から教科書の記述を引用（その際、引用したページを明記）して説明していること
- （５）「本論②」では、各自で得意な小学校の教科・テーマ（幼稚園教諭のみ取得希望者は、幼稚園の領域・テーマ）を選び、各自が考えた具体的な授業事例（題材、目標、展開、教材、学習活動、指導上の留意点等）（幼稚園教諭のみ取得希望者は、具体的な保育事例（保育内容、目標、環境、園児の活動、保育者の支援等））を紹介する。その際、必ず情報通信技術の活用の仕方を説明し、なおかつ「本論①」で取り上げた３つのポイントを関連付けながら説明していることが条件である。（注意：ポイントごとに授業事例を取り上げるのではなく、１つの授業事例において３つのポイントを取り込むこと）
- （６）「結論」では、レポート作成を通しての省察（振り返り）を述べていること
- （７）引用文献、参考文献等を文末に明記していること（教科書も一つの文献として取り上げること）

レポート評価は、（１）～（７）を満たしているかについて採点し、内容の充実度、表現の工夫の程度に応じて評定する。なお、再提出（D）の場合、レポートの内容に応じて追加課題を課すことがある。必ず、追加課題にも取り組んでから再提出すること。

■スクーリング学修

スクーリングの事前学修：

- ①指定された教科書をよく読み、「■学修の具体的な進め方」のテーマ①～③の学習お

よびレポート作成に取り組む。

②「■学修の具体的な進め方」のテーマ④について、オンデマンド教材を視聴し、課題に取り組む。

スクーリングでの学修内容：

スクーリング（対面）では、「■学修の具体的な進め方」のテーマ⑤について、道徳の読み物教材を配布して実際に授業づくりを行う。まず、個人ワークにおいて、教材解釈、発問と板書計画を考える。次に、グループによる相互評価を通して、授業マネジメントや授業コミュニケーションの在り方、授業研究と授業改善の取り組み方について検討する。

スクーリングの事後学修：

科目修得試験（レポート方式）において、学習指導案・教材等を作成する。

■学修の具体的な進め方

テーマ①：ガイダンス・授業設計の基礎

シラバス：第1回～第5回 教科書：第1章～第5章

到達目標（何を学ぶか）

- (1) 「学力」の主な定義とこれからの社会を生きるために求められる力について説明できる。
- (2) 「省察的实践家」をキーワードに教師に求められる資質・能力について説明できる。
- (3) インストラクショナルデザインに基づく情報通信技術を活用した授業のつくりかたについて説明できる。
- (4) 学習目標に応じて教育データを活用した評価方法について説明できる。
- (5) 情報通信技術を活用した学習環境の考え方とデザインの要点について説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

- (1) 21世紀以降の世界で求められる学力についての主な議論をまとめよう。
- (2) TPACK にしたがって授業を実践するために必要な知識を整理しよう。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」をよりよく支える授業デザインをインストラクショナルデザインの考え方に沿って考察しよう。
- (4) ガニエの5分類を参照しながら学習目標の内容に応じて適切に評価を行う方法を考えよう。
- (5) 自分が知っている学びの場を例に取り学習環境と学習の質との関係を考察しよう。

テーマ②：授業実践の基礎

シラバス：第6回・第7回 教科書：第6章・第7章

到達目標（何を学ぶか）

- (1) 授業における教師の立ち振る舞いや説明、指示、発問及び板書といった授業の基礎的な技術について説明できる。

(2) 机間指導、ノート指導、学び合う集団づくりなど子供の学びを引き出すため基礎的な技術について説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

授業者の立場に立った際にどのような授業を実践してみたいかを考えながら、自分なりの実践方法やスタイルについて検討してみよう。

テーマ③：授業設計の実際

シラバス：第8回～第10回 教科書：第8章～第11章

到達目標（何を学ぶか）

- (1) 学習指導案の構成について理解し、学習目標の設定方法について説明できる。
- (2) 教科書・教材の役割について理解し、効果的な教材研究の方法について説明できる。
- (3) 主体的・対話的につながる学習過程について理解し、具体的な指導方法について説明できる。
- (4) 学習評価の基礎的な考え方について理解し、具体的な評価方法について説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

得意な小学校の教科・テーマ（幼稚園教諭のみ取得希望者は、幼稚園の領域・テーマ）を選び、テキストの説明を活かしつつ、実際に授業を考えてみよう。

テーマ④：情報化への対応

シラバス：第11回・第12回・第15回 教科書：第12章～第14章（別途資料）

到達目標（何を学ぶか）

「教育の情報化」について全体像を把握したうえで、情報教育、教育情報の活用、教科等指導における情報通信技術の活用について学ぶ。

学修の進め方（どう学ぶか）

オンデマンド教材で指示する。

研究課題

オンデマンド教材で指示する。

テーマ⑤：授業の実施

シラバス：第13回・第14回 教科書：該当なし（別途資料）

到達目標（何を学ぶか）

スクーリング時に配付された教材を基に、授業（発問・板書計画を含む）を考案し、相互評価を実施し、科目修得試験に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。

学修の進め方（どう学ぶか）

スクーリング時に指示する。

研究課題

スクーリング時に指示する。

参考文献

補助テキスト（自作資料）

- (1) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』東洋館出版社
 - (2) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社
 - (3) 文部科学省 ICT の効果的な活用に関する資料等について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/000006851.html
 - (4) 田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年
 - (5) 秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
 - (6) 西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年
- そのほか、補足資料は必要に応じて Google Classroom 上で随時追加更新いたします。

併せてとりたい科目

情報処理

授業実践演習（初等）

各教科・各領域の指導法に関する科目

教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（中等）

なか ひさのり さいとうとしのり

（担当：仲 久徳・斎藤俊則）

E-mail: 削除

科目コード	単位数 () 内は SC	レポート (RE)	スクーリング (SC)	科目修得 試験	学修の順番
542203	2 (0.5) 単位	1 本	1 日	レポート方式	RE→SC
備考	【教員免許】 中学校（社会）（保健体育）（英語）・高等学校（公民）（保健体育）（英語）（地理歴史）「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 【レポートの事前提出】 受講を希望するスクーリング日の1週間前までにレポートをオンライン、メール、郵送（必着）のいずれかで提出してください。事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。 【オンデマンド視聴】 この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、Web ライブスクーリングを受講すること。				
スクーリングの持ち物	教科書、筆記用具、ノート				
教科書	稲垣忠『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房 2019 年				
キーワード	教育方法，学び，学習評価，授業運営，情報通信技術の活用				
クラスコード	削除				

■授業の到達目標及びテーマ

- (1) 教育方法、学びや授業、学習評価、情報通信技術の活用、情報活用能力（情報モラルを含む。）に関する基礎的事項について説明できる。
- (2) 教材研究の方法や授業の構成について理解し、主として情報活用能力（情報モラルを含む。）の育成を図る教材を活用した授業を提案し、学習指導案が作成できる。
- (3) 情報通信技術の活用について、教材研究・授業における具体的な活用方法や学習環境を提案できる。

■授業の概要

本授業では、教育方法、学びや授業、学習評価、情報通信技術の活用、情報活用能力（情報モラルを含む。）に関する基本的な考え方について理解するとともに、学習指導案の作成を含めた授業に関する基礎的技術を身に付けていく。また、教師に求められる「学びを読み取る力」、「授業を見る力」について理解を深めていく。

■学修の流れと進め方

<学修の流れ>

- ①レポート提出後にスクーリング（オンデマンド、対面の順）を受講する。
- ②レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験（レポート方式）を提出する。

<学修の進め方>

- ①教科書を読んで学んだことのうち、実際に授業をデザイン、実施する際に重要だと考えられる点について、実際の授業事例を考えながらレポートにまとめる。
- ②スクーリングを受講する。なお、オンデマンド、対面の順に受講する。
- ③科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

■レポート学修

レポートのテーマ（2,000字～3,000字程度）

情報非公開のため削除

レポートの評価基準

- （１）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （２）レポート構成は「序論」、「本論①・②」、「結論」の構成になっていること
- （３）「序論」では、授業についての自らの考え方について述べていること
- （４）「本論①」では、授業をデザインする、実施する際に重要だと考える３つのポイントの概要について、教科書の３つ以上の章（そのうち必ず１つは第12, 13, 14章のいずれかを含む）から教科書の記述を引用（その際、引用したページを明記）して説明していること
- （５）「本論②」では、各自が専攻する教科から授業のテーマを選び、各自が考えた具体的な授業事例（題材、目標、展開、教材、学習活動、指導上の留意点等）を紹介する。その際、必ず情報通信技術の活用の仕方を説明し、なおかつ「本論①」で取り上げた３つのポイントを関連付けながら説明していることが条件である。（注意：ポイントごとに授業事例を取り上げるのではなく、１つの授業事例において３つのポイントを取り込むこと）
- （６）「結論」では、レポート作成を通しての省察（振り返り）を述べていること
- （７）引用文献、参考文献等を文末に明記していること（教科書も一つの文献として取り上げること）

レポート評価は、（１）～（７）を満たしているかについて採点し、内容の充実度、表現の工夫の程度に応じて評定する。なお、再提出（D）の場合、レポートの内容に応じて追加課題を課すことがある。必ず、追加課題にも取り組んでから再提出すること。

■スクーリング学修

スクーリングの事前学修：

- ①指定された教科書をよく読み、「■学修の具体的な進め方」のテーマ①～③の学習およびレポート作成に取り組む。
- ②「■学修の具体的な進め方」のテーマ④について、オンデマンド教材を視聴し、課題

に取り組む。
スクーリングでの学修内容： スクーリング（対面）では、「■学修の具体的な進め方」のテーマ⑤について、道徳の読み物教材を配布して実際に授業づくりを行う。まず、個人ワークにおいて、教材解釈、発問と板書計画を考える。次に、グループによる相互評価を通して、授業マネジメントや授業コミュニケーションの在り方、授業研究と授業改善の取り組み方について検討する。
スクーリングの事後学修： 科目修得試験（レポート方式）において、学習指導案・教材等を作成する。

■学修の具体的な進め方

テーマ①：ガイダンス・授業設計の基礎 シラバス：第1回～第5回 教科書：第1章～第5章
到達目標（何を学ぶか） (1) 「学力」の主な定義とこれからの社会を生きるために求められる力について説明できる。 (2) 「省察的实践家」をキーワードに教師に求められる資質・能力について説明できる。 (3) インストラクショナルデザインに基づく情報通信技術を活用した授業のつくりかたについて説明できる。 (4) 学習目標に応じて教育データを活用した評価方法について説明できる。 (5) 情報通信技術を活用した学習環境の考え方とデザインの要点について説明できる。
学修の進め方（どう学ぶか） テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。
研究課題 (1) 21世紀以降の世界で求められる学力についての主な議論をまとめよう。 (2) TPACK にしたがって授業を実践するために必要な知識を整理しよう。 (3) 「主体的・対話的で深い学び」をよりよく支える授業デザインをインストラクショナルデザインの考え方に沿って考察しよう。 (4) ガニエの5分類を参照しながら学習目標の内容に応じて適切に評価を行う方法を考えよう。 (5) 自分が知っている学びの場を例に取り学習環境と学習の質との関係を考察しよう。
テーマ②：授業実践の基礎 シラバス：第6回・第7回 教科書：第6章・第7章
到達目標（何を学ぶか） (3) 授業における教師の立ち振る舞いや説明、指示、発問及び板書といった授業の基礎的な技術について説明できる。 (4) 机間指導、ノート指導、学び合う集団づくりなど子供の学びを引き出すため基

礎的な技術について説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

授業者の立場に立った際にどのような授業を实践してみたいかを考えながら、自分なりの実践方法やスタイルについて検討してみよう。

テーマ③：授業設計の実際

シラバス：第 8 回～第 10 回 教科書：第 8 章～第 11 章

到達目標（何を学ぶか）

- (5) 学習指導案の構成について理解し、学習目標の設定方法について説明できる。
- (6) 教科書・教材の役割について理解し、効果的な教材研究の方法について説明できる。
- (7) 主体的・対話的につながる学習過程について理解し、具体的な指導方法について説明できる。
- (8) 学習評価の基礎的な考え方について理解し、具体的な評価方法について説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

各自が専攻する教科から授業のテーマを選び、テキストの説明を活かしつつ、実際に授業を考えてみよう。

テーマ④：情報化への対応

シラバス：第 11 回・第 12 回・第 15 回 教科書：第 12 章～第 14 章（別途資料）

到達目標（何を学ぶか）

「教育の情報化」について全体像を把握したうえで、情報教育、教育情報の活用、教科等指導における情報通信技術の活用について学ぶ。

学修の進め方（どう学ぶか）

オンデマンド教材で指示する。

研究課題

オンデマンド教材で指示する。

テーマ⑤：授業の実施

シラバス：第 13 回・第 14 回 教科書：該当なし（別途資料）

到達目標（何を学ぶか）

スクーリング時に配付された教材を基に、授業（発問・板書計画を含む）を考案し、相互評価を実施し、科目修得試験に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。

学修の進め方（どう学ぶか）

スクーリング時に指示する。

研究課題

スクーリング時に指示する。

参考文献

補助テキスト（自作資料）

- (5) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）』東山書房
 - (6) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東山書房
 - (7) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）』東山書房
 - (8) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社
 - (9) 文部科学省 ICT の効果的な活用に関する資料等について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/000006851.html
 - (10) 田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年
 - (5) 秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
 - (6) 西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年
- そのほか、補足資料は必要に応じて Google Classroom 上で随時追加更新する。

併せてとりたい科目

情報処理

授業実践演習（中等）

各教科の指導法に関する科目

教育実習内諾活動 事前課題

[illegible]

第 8 章 教職実践演習

- 教職実践演習の学修にあたっては、所定の要件（履修科目登録の要件、スクーリング受講要件等）を満たす必要がある。
- 教職実践演習の履修年度は、教職実践演習科目の「学修指導書」を熟読すること。

1. 教職実践演習の概要

「教職実践演習」は教職課程履修の総まとめとして、教育実習後の 4 年次（※）に受講する科目となり、これまでに身につけてきた知識・技能を振り返り、教員として最低限必要な資質能力が身に付いているかを確認するためのものである。これからの教員には社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場の諸課題への対応を図るために社会からの尊敬・信頼を受け、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有することが求められている。また、教職生活全体を通じて実践的指導力等を高めるとともに、探究力を持ち学び続ける存在でなければいけない。本科目の履修にあたっては、学修指導書を熟読し、スクーリング受講に備えて早めに準備を行うことが求められる。

※ 基礎資格（学士等）取得予定者は、基礎資格（学士等）取得見込み年度にのみ履修可能である。

これからの教員に
求められる資質能力

1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
2. 社会性や対人関係能力に関する事項
3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項

2. 教職実践演習の履修科目登録の要件

教職実践演習を履修科目登録するためには、履修科目登録年度の年度はじめに下記の①と②の要件の両方を満たす必要がある。

【履修科目登録の要件】

- ① 基礎資格（学士等）について、取得済み、もしくは教職実践演習の履修年度に取得見込みである（正科生の場合、4 年次にのみ履修可）。
- ② 対象の教員免許状の必要科目（教育実習科目含む）のすべてについて、単位修得済み、もしくは教職実践演習の履修年度に単位修得見込みである。

3. 教職実践演習のスクーリング受講の要件

教職実践演習は、科目の特性上、教職課程の最後に教育実習を含め、必要科目を振り返り、教員としての資質を見極めるため、受講にあたっては、教育実習が終了後（事後指導スクーリングの受講含む）、必要科目の学修が完了している必要がある。

自身の学修スケジュールと、「教職実践演習」のスクーリングスケジュールとを確認のうえ、適切な時期のスクーリングを受講すること。

受講要件

スクーリング受講2週間前までに下記の2つの要件をいずれも満たす必要がある。

- ① 取得希望の教員免許状のすべての必要科目の単位を修得済みもしくは成績（合格）がでていること、または必要科目のうち最低でも4分の3以上の科目の単位を修得済みもしくは成績（合格）が出ていること。

※大前提として、基礎資格（学士等）について、取得済み、もしくは教職実践演習の受講年度に取得見込みであることが必須である（正科生の場合、4年次にのみ履修可）。

- ② 「教職課程履修カルテ」、「履修カルテ(自己評価)」を所定の方法で提出していること。

※受講2週間前までにいずれか一方でも要件を満たしていない場合は、スクーリング受講不可

4. 事前提出課題

「履修カルテ」には、教職課程の科目履修を始めてから「教育実習」を経て「教職実践演習」を履修するまでの学修状況の記録及び「教育実習」の前後に実施される「教員として必要な資質」についての自己評価を記入してもらう。「履修カルテ」を記入することによって、学生自らが「共生」という本学の建学の精神を踏まえつつ教員免許状取得に向けてどのような学修が必要なのかを考え、また「教職実践演習」や補完的な教職指導に活用する。

※「履修カルテ」のほか、別途、学修指導書に課題の指示がある場合は、併せて準備すること。

1) 提出時期・留意点

①「教職課程履修カルテ」

年2回、3月末、9月末の単位認定ごとに入力（記入）し、教職実践演習のスクーリング受講2週間前までに完成したものを学生ポータルサイトの提出フォームから提出（アップロード）すること。

ただし、教職実践演習を受講する年度は、単位認定前であってもすべての必要科目について入力（記入）を済ませる。

※初等あるいは中等で複数の校種・教科の免許状の取得を目指している場合は、実施した教育実習の校種・教科の同カルテを提出すること。

※「修得年度」は4月生、10月生ともに4月～翌年3月の学校暦としての年度を記入すること。

※他大学で修得済み科目がある場合、他大学の様式で作成した教職課程履修カルテの提出も必要。

②「履修カルテ（自己評価）」

教育実習終了後（事後指導スクーリングの受講含む）、教職実践演習のスクーリング受講2週間前までに「教職課程履修カルテ」とともに提出（アップロード）すること。

教育実習事前指導スクーリングの受講後、および教育実習終了後のそれぞれの時期に5段階で自己評価をし、教育実習実施後は「自己課題」を具体的に記載すること。

留意点

- ・期限までに「教職課程履修カルテ」および「履修カルテ（自己評価）」の提出が確認できない場合、教職実践演習は受講できないので、注意すること。
- ・受講の際には必ず実習日誌（コピー）を持参すること。
- ・そのほか注意事項については「学修指導書」を確認すること。

2) 提出先

学生ポータルサイト：教職課程登録者用ページ→教職実践演習

3)「教職課程履修カルテ」の記入方法

①対象の教員免許状のすべての必要科目について記入する必要がある。

介護等体験や学校ボランティアを実施していない場合は記入は不要。

②入力後は誤字・脱字・表記表現の誤りなどがないように見直すこと。

③各ページの記入時期について

項 目	記入時期
教科及び教科の指導法に関する科目・教育の基礎的理解に関する科目等	単位認定（3月末以降、9月末以降）ごとに入力。 教職実践演習受講年度の履修科目は教職実践演習スクーリング受講2週間前までに状況を入力。
介護等体験について	実施学生は施設にて介護等体験が終了した後、速やかに入力。
学校ボランティア	学校ボランティアを行った際に入力。

4) 教育の基礎的理解に関する科目等の記入方法

下記の表をもとに、各科目に含める必要事項について理解し、学修をすることができたかを教育の基礎的理解に関する科目等の「教職課程履修カルテ」に記入すること。

【初等】

科目名	各科目に含める必要事項
教育原理（初等）	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教職概論（初等）	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
教育経営・学校安全論（初等）	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育心理学（初等）	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
特別の支援を必要とする幼児・児童の理解	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
教育課程論（初等）	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
道徳の理論・指導法（初等）	道徳の理論及び指導法
総合的な学習の時間の指導法（初等）	総合的な学習の時間の指導法
特別活動の指導法（初等）	特別活動の指導法
教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（初等）	幼稚園：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 小学校：教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
幼児理解の理論と方法	幼児理解の理論及び方法
生徒・進路指導論（初等）	生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法
教育相談（初等）	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
教育実習（初等）（１）（２）	教育実習

【中等】

科目名	各科目に含める必要事項
教育原理（中等）	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教職概論（中等）	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
教育経営・学校安全論（中等）	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育心理学（中等）	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
特別の支援を必要とする生徒の理解	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
教育課程論（中等）	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
道徳の理論・指導法（中等）	道徳の理論及び指導法
総合的な学習の時間の指導法（中等）	総合的な学習の時間の指導法
特別活動の指導法（中等）	特別活動の指導法
教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（中等）	教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
生徒・進路指導論（中等）	生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法
教育相談（中等）	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
教育実習（中等）Ⅰ（１）（２）	教育実習

※注意：他大学等で教職課程を履修する場合には、その大学等から「教職課程履修カルテ」の提出を求められることもある。「教職課程履修カルテ」は教育職員免許状を取得するまで大切に保管しておくこと。

5) その他

他大学で修得した科目は他大学で作成した「教職課程履修カルテ」を提出すること。

他大学での「教職課程履修カルテ」を準備できない場合、実務経験を実習単位に振り替えることにより教育実習を実施しない場合、また他大学で教育実習（取得希望免許状と同一校種）を実施済みでかつ教育実習日誌が手元にない場合は、所定の期日までに別途課題提出が必要であるため、教職実践演習履修年度の年度はじめに教職総合支援センターまで相談すること。

6) 様式

「教職課程履修カルテ」・「履修カルテ（自己評価）」の様式（「教職課程履修カルテ」は学校種・教科別）は、学生ポータルサイトの以下のページからダウンロードすること。

学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→各種様式

- ・単位数・修得年度・担当教員名・成績を必ず記入すること。
- ・他大学で修得している科目については他大学で作成した教職課程履修カルテを提出すること。準備できない場合は教職実践演習履修年度の年度はじめに教職総合支援センターまで相談すること。
- ・教育実習実施が不要な場合は教職総合支援センターまで連絡すること。その場合、「履修カルテ（自己評価）」の提出は不要。

星槎大学

教育実習のしおり

____年度

学 籍 番 号 ・ 名 前	学籍: _____ 名前: _____
学 校 名 園 名	立 _____ 学校・園 _____
実 習 期 間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()

紛失厳禁

 実習時に持参すること！

目 次

I	教育実習とは何か	3
	1. 教育実習の意義	
	2. 教育実習の目的	
	3. 教育実習の内容	
II	教職科目履修状況確認について	4
III	教育実習の心得	5
	1. 教育実習事前オリエンテーション	
	(1) オリエンテーション時の基本的心得	
	(2) オリエンテーションでの確認事項	
	(3) オリエンテーションの報告	
	2. 教育実習	
	(1) 基本的な心得	
	(2) 教育実習期間中の携帯品	
	(3) 服装について	
	(4) 勤務上の注意点	
	(5) 情報の取り扱いについて	
	(6) 園児・児童・生徒に接する心得	
	(7) 教育実習の実務についての心得	
	(8) 教育実習日誌について	
	(9) 教育実習終了後について	
	3. 大学との情報連携について	
IV	教育実習事前提出書類について	10
V	麻しんワクチンの接種と健康診断受診について	11
VI	教育実習年度の流れ・書類等について	12
	1. 教育実習年度初めの流れ	
	2. 各種書類について	
	3. 2で送付した書類及びその他準備物について	
	4. その他教育実習に関わる留意点	
	5. 教育実習終了後	
	6. 教育実習日誌返却	
VII	個別指導体制について	15
VIII	教育実習科目について	17
IX	教職実践演習受講について	18
	教育実習個人調査書、誓約書、健康診断票の記入見本	19
	教育実習校（園）オリエンテーション報告書	22
	教育実習日誌（見本）	
	学習指導案（例）	
	連絡先(問合せ先)	23
	教育実習実施前から終了までの流れと提出書類確認表	裏表紙

星槎大学「教員養成の理念」

星槎大学共生科学部における教員養成の理念は以下のとおりである。

【星槎大学共生科学部 教員養成の理念】

星槎大学共生科学部共生科学科は、人と人と、あるいは人と自然とが共生する社会の創造に貢献することを目的とした「共生」という建学の精神をふまえ、21 世紀に適応する広い知力の育成、心の耕作、課題探求能力育成を主要な柱として、それを教育理念としている。

その人材養成目標は、次代へと続く共生社会に寄与する人材の輩出にある。

共生社会の創造に貢献するために、子どもたちへ本学で学修したことを伝えていくことができる人材を輩出することが、本学における教員養成の理念である。

星槎大学「教職課程の設置の趣旨」

星槎大学共生科学部における教職課程の設置の趣旨は以下のとおりである。

【星槎大学共生科学部 教職課程の設置の趣旨】

星槎大学は、「建学の精神」「教育理念」を「教員養成に対する理念」の基礎としている。

本学が教職課程を設置する趣旨は、それらを具現化することにある。具体的には、以下のような教員を養成することにある。

- (1) 21 世紀の変化に応じた知識・技能の絶えざる刷新を指向する教員の養成
- (2) 共生する心を耕作することのできる教員の養成
- (3) 課題探求能力をもった教員の養成
- (4) 発達障害児等を指導する能力をもった教員の養成

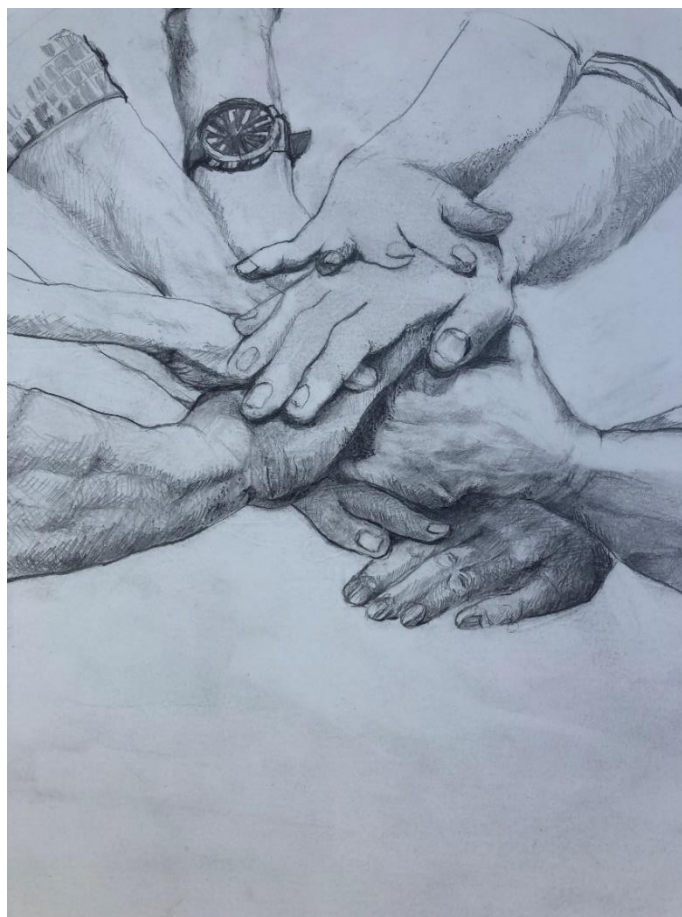
また、本学校法人の建学の精神である「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」ということと、教育理念である「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現を目指し、それを成し遂げる」というものは、本学設置の大元にあるものであり、全ての教育活動に共通するものである。

「教育実習のしおり」は、教育実習に参加するにあたって心がける点について詳細に案内している。熟読し、実習時にも必ず持参し状況に応じた言動が取れるようにすること。

教員を目指す人のために

-初等教育編-

To pursue your dream



星槎大学教職総合支援センター

入学から卒業までの流れ (1年次入学の場合)

	学事日程	教員採用	教職関係
1年次	4月 入学式(4月入学) 新入生オリエンテーション 履修登録	教職課程ガイダンス 学校ボランティアⅠ	(春の教員採用試験対策講座)
	10月 入学式(10月入学) 新入生オリエンテーション 履修登録	教職課程ガイダンス 学校ボランティアⅠ	(秋の教員採用試験対策講座)
	4月 履修登録	学校ボランティアⅠ 介護等体験(前年に申込必要 2年次～4年次に実施可能)	(春の教員採用試験対策講座)
2年次	10月 履修登録		(秋の教員採用試験対策講座)
	4月 履修登録	学校ボランティアⅠ	春の教員採用試験対策講座
	5月	教育実習内語活動ガイダンス 内語活動事前試験 教育実習内語活動開始	よこはま教研会「アイ・カン ンジ」 かながわティーチャーズ クール
3年次	10月 履修登録	(教育実習一括申込 一部 地域と学校種のみ)	秋の教員採用試験対策講座
	4月 履修登録 共生研究または卒業論文	教育実習ガイダンス 教育実習事前指導 教育実習	春の教員採用試験対策講座 採用試験 合格者発表
	10月 履修登録	教育実習事後指導 教職実践演習	
4月 年次	3月 卒業	学校ボランティアⅡ 卒業認定	赴任先決定
	9月 卒業	免許状申請	
		卒業認定	

入学から卒業までの (3年次編入学の場合)

		学事日程	教職関係	教員採用
3 年 次	4月	入学式 履修登録	学校ボランティアⅠ 教職関係ガイダンス	春の教員採用試験対策講座 よこはま教研会「アイ・カレッジ」
	5月		教育実習内職活動ガイダンス 内職活動事前面談 教育実習内職活動開始 (教育実習一括申込 一部地 域と学校種のみ)	かながわティーチャーズスクール
	10月	入学式 履修登録	教職関係ガイダンス 教育実習内職活動ガイダンス 内職活動事前面談 教育実習内職活動開始(～12月 項目迄)	秋の教員採用試験対策講座
	4月	履修登録 共生研究または卒業 論文	教育実習ガイダンス 教育実習事前指導 教育実習・介護等体験 教育実習事後指導 教職実践 演習	春の教員採用試験対策講座 採用試験
4 年 次	10月	履修登録	学校ボランティアⅡ 卒業認定	合格発表
	3月	卒業	免許状申請 卒業認定	起任先決定
	9月	卒業		

目 次

時代を築く教師たれ	1
第1章 教員になるということ	
この章のねらい	2
1. 中央審議会の答申について	2
2. 星槎大学の目指す教員像について	5
第2章 どのように学ぶか	
この章のねらい	7
1. カリキュラム・マネジメント	8
2. 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点から）	10
3. 新学習指導要領が示す深い学びの中核となる「見方・考え方」	12
4. 学習評価	13
5. 特別の支援が必要な幼児・児童の理解	14
6. 国語科	16
7. 社会科	18
8. 算数科	20
9. 理科	22
10. 生活科	24
11. 音楽科	26
12. 図画工作科	28
13. 家庭科	30
14. 体育科	32
15. 外国語活動・外国語科	34
16. 特別の教科 道徳	36
17. 総合的な学習の時間	38
18. 特別活動	40
第3章 学校の様子を知る	

この章のねらい	44
1. 先生の1日	44
2. 学級づくりのスタート、年度初めの学級	45
3. 担任の配慮と工夫	46
4. 朝の会・帰りの会	47
5. 給食指導、清掃指導	48
6. 教室の環境づくり	50
7. 児童・生徒指導	51
8. 保護者・地域連携	53
<参考>部活動(中学校・高等学校の場合)	56

第4章 教育現場で学ぶ・自己を見つめる

この章のねらい	59
1. 教育現場を知る ― 介護体験、学校ボランティア	59
1) 介護体験	59
2) 学校ボランティア	61
2. 教育現場を体験する ― 教育実習	77
3. 学びを振り返る ― 教職実践演習	88

第5章 幼稚園教育を知る

この章のねらい	92
1. 幼稚園教育の基本	93
2. 幼児教育の特性と幼稚園教育の役割	97
3. 心身の健康に関する領域「健康」	99
4. 人とかかわりに関する領域「人間関係」	101
5. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」	103
6. 言葉の獲得に関する領域「言葉」	105
7. 感性と表現に関する領域「表現」(音楽)	107
8. 感性と表現に関する領域「表現」(造形)	109

授業科目名： 授業実践演習 (初等)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：仲 久徳 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	なし		
「学位授与の方針」との関係 ・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 ・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ ・授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を理解する。 ・授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。 ・授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。 ・授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。			
授業の概要 テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：授業デザインの基礎①－目標の分析・設定と評価規準・基準の設定 第3回：授業デザインの基礎②－教材研究 第4回：授業デザインの基礎③－指導形態、指導方法、指導過程 第5回：授業運営の方法と技術①－リーダーシップ、人間関係 第6回：授業運営の方法と技術②－授業マネジメント 第7回：授業運営の方法と技術③－授業コミュニケーション 第8回：授業評価の方法と技術①－量的分析 第9回：授業評価の方法と技術②－質的分析 第10回：授業実践①－授業デザイン 第11回：授業実践②－模擬授業 第12回：授業実践③－相互評価 第13回：授業実践④－学習指導案の作成 第14回：授業研究と授業改善 第15回：まとめ			

定期試験

＊スクーリングでは、第１０回～第１３回を実施する。

教科書

（１）稲垣 忠・鈴木 克明（編著）『授業設計マニュアル Ver.2－教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房 2015 年

参考文献

- （１）佐藤 学『教育の方法』左右社 2010 年
- （２）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
- （３）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年
- （４）田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年

学生に対する評価：

レポート（25％）、スクーリング（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。

授業科目名： 授業実践演習（中等）	教員の免許状取得のた めの選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：仲 久徳 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特になし		
「学位授与の方針」との関係 ・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 ・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ ・授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を理解する。 ・授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。 ・授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。 ・授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。			
授業の概要 テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。			
授業計画 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：授業デザインの基礎①－目標の分析・設定と評価規準・基準の設定 第 3 回：授業デザインの基礎②－教材研究 第 4 回：授業デザインの基礎③－指導形態、指導方法、指導過程 第 5 回：授業運営の方法と技術①－リーダーシップ、人間関係 第 6 回：授業運営の方法と技術②－授業マネジメント 第 7 回：授業運営の方法と技術③－授業コミュニケーション 第 8 回：授業評価の方法と技術①－量的分析 第 9 回：授業評価の方法と技術②－質的分析 第 10 回：授業実践①－授業デザイン 第 11 回：授業実践②－模擬授業 第 12 回：授業実践③－相互評価 第 13 回：授業実践④－学習指導案の作成 第 14 回：授業研究と授業改善 第 15 回：まとめ 定期試験 ＊スクーリングでは、第 10 回～第 13 回を実施する。			

教科書

(1) 稲垣 忠・鈴木 克明 編著 (2015) 『授業設計マニュアル Ver.2－教師のためのインストラクショナルデザイン』 北大路書房

参考文献

- (1) 佐藤 学 (2010) 『教育の方法』 左右社
- (2) 田中耕治 他 (2012) 『新しい時代の教育方法』 有斐閣
- (3) 西岡加名恵 他編 (2015) 『新しい教育評価入門』 有斐閣
- (4) 秋田喜代美 『学びの心理学 授業をデザインする』 左右社 2012 年

学生に対する評価：

レポート (25%)、スクーリング (25%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する。

授業実践演習（初等）（担当：仲^{なか}久徳^{ひさのり}）

E-mail：削除

科目コード	単位数 () 内は SC	レポート (RE)	スクーリング (SC)	科目修得 試験	学修の順番
546187	2 (0.5) 単位	1 本	1 日	レポート方式	RE→SC
備考	【教員免許】 幼稚園・小学校「大学が独自に設定する科目」 【レポートの事前提出】 <u>受講を希望するスクーリング日の1週間前までにレポートをオンライン、郵送（必着）のいずれかで提出してください。</u> <u>事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。</u> 【オンデマンド視聴】この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、対面スクーリング時に持参すること。				
スクーリングの持ち物	教科書、筆記用具、ノート				
教科書	稲垣 忠・鈴木 克明（編著）『授業設計マニュアルー教師のためのインストラクショナルデザイン(ver.2)』北大路書房				
キーワード	授業づくり、授業コミュニケーション、学習指導案				
クラスコード	削除				

■授業の到達目標及びテーマ

- (1) 授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術について理解する。
- (2) 授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。
- (3) 授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。
- (4) 授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。

■授業の概要

テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。

■学修の流れと進め方

<学修の流れ>

- ①レポート提出後にスクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。
- ②レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験を提出する。

<学修の進め方>

- ①テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学ぶ。
- ②スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。
- ③科目修得試験に取り組む。

■レポート学修

レポートのテーマ（2,000字～3,000字程度）

情報非公開のため削除

レポートの評価基準

- （１）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （２）レポート構成は「序論」、「本論」、「結論」の構成になっていること。
- （３）「序論」では、「授業」の働きについて自らの考え方について述べていること。
- （４）「本論」では、「授業デザイン（授業設計）」、「授業運営」の２点において重要だと考えるポイントについてテキストの内容を参照して説明していること。
- （５）「結論」では、なぜ、重要だと思ったのか「序論」での「授業」の働きと関連付けて説明していること。
- （６）引用文献、参考文献等を文末に明記していること。（テキストも一つの文献として取り上げること。）

■スクーリング学修

スクーリングの事前学修：

指定されたテキストをよく読み、オンデマンド教材をよく視聴し、以下の「■学修の具体的な進め方」に掲げるテーマ①・②・③の学修およびレポート作成に取り組む。

スクーリングでの学修内容：

事前配布する教材をもとにして授業コミュニケーションの核となる「発問」と「板書」に着目した授業をデザインし、参加者による模擬授業、討論を通して、効果的な授業づくりについて学ぶ。最後に、科目修得試験に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。

スクーリングの事後学修：

スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成し、科目修得試験として提出する。

■学修の具体的な進め方

テーマ①：授業デザインの基礎

シラバス：第１回～第４回 テキスト：第１章～第８章

到達目標（何を学ぶか）

授業デザイン（授業設計）の基礎である「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から授業デザイン（授業設計）のポイントを説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

- （１）テキストに沿って「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」のポイントをまとめよう。
- （２）具体的な授業例で効果的な授業デザイン（授業設計）について「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。

テーマ②：授業運営の方法と技術

シラバス：第５回～第７回 テキスト：第９章～第１２章

到達目標（何を学ぶか）

授業運営の方法と技術に関して「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から効果的な授業運営のあり方を説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

- （１）テキストに沿って「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」のポイントをまとめよう。
- （２）具体的な授業例で効果的な授業運営について「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。

テーマ③：授業評価の方法と技術

シラバス：第８回～第９回 テキスト：第１３章～第１４章

到達目標（何を学ぶか）

効果的な授業評価・改善の方法を説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

具体的な授業例で効果的な授業評価・改善の方法について検討してみよう。

テーマ④：授業実践（スクーリング）

シラバス：第１０回～第１３回 テキスト：該当なし

到達目標（何を学ぶか）

事前に配付された教材を基に、授業デザイン、模擬授業、相互評価を実施し、科目修得試験に向けて「学習指導案」等の作成方法について学ぶ。

学修の進め方（どう学ぶか）

スクーリングで指示する。

研究課題

スクーリングで指示する。

テーマ⑤：授業研究と授業改善

シラバス：第14回～第15回 テキスト：該当なし

到達目標（何を学ぶか）

スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

スクーリングで指示した方法に沿って学習指導案を作成する。

研究課題

スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案として作成してみよう。

参考文献

- (1) 佐藤 学『教育の方法』左右社 2010年
- (2) 秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012年
- (3) 西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015年
- (4) 田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012年

併せてとりたい科目

教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（初等）

各教科の指導法（初等）に関する科目

授業実践演習（中等）（担当：仲^{なか}久^{ひさのり}徳）

E-mail: 削除

科目コード	単位数 () 内は SC	レポート (RE)	スクーリング (SC)	科目修得 試験	学修の順番
542117	2 (0.5) 単位	1 本	1 日	レポート方式	RE→SC
備考	【教員免許】 中学校（社会）・高等学校（公民）・中学校（保健体育）・高等学校（保健体育）「大学が独自に設定する科目」 【レポートの事前提出】 <u>受講を希望するスクーリング日の1週間前までにレポートをオンライン、郵送（必着）のいずれかで提出してください。</u> <u>事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。</u> 【オンデマンド視聴】この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、対面スクーリング時に持参すること。				
スクーリングの持ち物	教科書、筆記用具、ノート				
教科書	稲垣 忠・鈴木 克明（編著）『授業設計マニュアルー教師のためのインストラクショナルデザイン(ver.2)』北大路書房 2015年				
キーワード	授業づくり、授業コミュニケーション、学習指導案				
クラスコード	削除				

■授業の到達目標及びテーマ

- （１）授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術について理解する。
- （２）授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。
- （３）授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。
- （４）授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。

■授業の概要

テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。

■学修の流れと進め方

<学修の流れ>

- ①レポート提出後にスクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。
- ②レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験を提出する。

<学修の進め方>

- ①テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学ぶ。
- ②スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。
- ③科目修得試験に取り組む。

■レポート学修

レポートのテーマ（2,000字～3,000字程度）

情報非公開のため削除

レポートの評価基準

- （１）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （２）レポート構成は「序論」、「本論」、「結論」の構成になっていること。
- （３）「序論」では、「授業」の働きについて自らの考え方について述べていること。
- （４）「本論」では、「授業デザイン（授業設計）」、「授業運営」の２点において重要だと考えるポイントについてテキストの内容を参照して説明していること。
- （５）「結論」では、なぜ、重要だと思ったのか「序論」での「授業」の働きと関連付けて説明していること。
- （６）引用文献、参考文献等を文末に明記していること。（テキストも一つの文献として取り上げること。）

■スクーリング学修

スクーリングの事前学修：

指定されたテキストをよく読み、オンデマンド教材をよく視聴し、以下の「■学修の具体的な進め方」に掲げるテーマ①・②・③の学修およびレポート作成に取り組む。

スクーリングでの学修内容：

事前配布する教材をもとにして授業コミュニケーションの核となる「発問」と「板書」に着目した授業をデザインし、参加者による模擬授業、討論を通して、効果的な授業づくりについて学ぶ。最後に、科目修得試験に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。

スクーリングの事後学修：

スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成し、科目修得試験として提出する。

■学修の具体的な進め方

テーマ①：授業デザインの基礎

シラバス：第 1 回～第 4 回 テキスト：第 1 章～第 8 章

到達目標（何を学ぶか）

授業デザイン（授業設計）の基礎である「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から授業デザイン（授業設計）のポイントを説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

- （１）テキストに沿って「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」のポイントをまとめよう。
- （２）具体的な授業例で効果的な授業デザイン（授業設計）について「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。

テーマ②：授業運営の方法と技術

シラバス：第 5 回～第 7 回 テキスト：第 9 章～第 12 章

到達目標（何を学ぶか）

授業運営の方法と技術に関して「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から効果的な授業運営のあり方を説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

- （１）テキストに沿って「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」のポイントをまとめよう。
- （２）具体的な授業例で効果的な授業運営について「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。

テーマ③：授業評価の方法と技術

シラバス：第 8 回～第 9 回 テキスト：第 13 章～第 14 章

到達目標（何を学ぶか）

効果的な授業評価・改善の方法を説明できる。

学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

研究課題

具体的な授業例で効果的な授業評価・改善の方法について検討してみよう。
テーマ④：授業実践（スクーリング） シラバス：第 10 回～第 13 回 テキスト：該当なし
到達目標（何を学ぶか） 事前に配付された教材を基に、授業デザイン、模擬授業、相互評価を実施し、科目修得試験に向けて「学習指導案」等の作成方法について学ぶ。
学修の進め方（どう学ぶか） スクーリングで指示する。
研究課題 スクーリングで指示する。
テーマ⑤：授業研究と授業改善 シラバス：第 14 回～第 15 回 テキスト：該当なし
到達目標（何を学ぶか） スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成できる。
学修の進め方（どう学ぶか） スクーリングで指示した方法に沿って学習指導案を作成する。
研究課題 スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案として作成してみよう。

参考文献

- （１）佐藤 学『教育の方法』左右社 2010 年
- （２）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
- （３）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年
- （４）田中耕治 他『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年

併せてとりたい科目

教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（中等）
 各教科の指導法に関する科目

星槎大学 介様式6

社会福祉施設における介護等体験 自己評価票

施設名		体験期間	年 月 日～ 月 日 (, , , , ,)
体験の目標	【体験前に立てた課題やテーマ等】		
自己評価・感想	Q1 体験の目標は達成できましたか？ (達成できたこと、できなかったこととその理由等を具体的に記入して下さい)。		
	Q2 社会福祉施設や利用者に関するイメージが変わりましたか？		
	1 変わった 2 どちらともいえない 3 変わらない (理由)		
	Q3 今後の学生生活や教員になった時の参考になると思ったことがありますか？		
	Q4 全般的な感想や印象に残ったこと、今後の自分なりの課題等		

施設での体験について	Q1 今回の体験の満足度
	1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満
	Q2 受入側の対応や体験内容について
	1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満
	Q3 施設への要望他（自由回答）

星槎大学 共生科学部 (専攻)				
学籍番号	学年	年	氏 名	

横浜市大学連携・協働協議会資料（よこはま教育実践ボランティア）

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/volunteer/jissenvolu.html>